

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	290400019		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	黒石ケアサポートセンター		
所在地 (電話番号)	〒036-0537 青森県黒石市赤坂字池田136番地 (電話) 0172-59-1135		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 18日	評価確定日	平成 20年 1月 25日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 20人, 非常勤 人, 常勤換算 20人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部2 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	83.6 歳	最低 72 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中でその人らしく暮らせるように、“こころ”と人・地域との調和を理念として「和・話・笑・我・輪」を理念としている。職員は理念をよく理解しており、入居者の意思を尊重しながら、和やかで安心して暮らせる生活となるよう意欲的である。開設からまだ一年ほどであるが、入居者の生活状況や健康状況を詳しく記録しており、ケアに反映できるように努めている。リビングの窓からは雄大な岩木山と大きく広がる田んぼが一望でき、四季の移り変わりを感じ取ることができる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価の意義を理解しており、全職員一人ひとりが自己評価を行い、その後全員で改善点を話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はまだ開催されていない。現在12月の開催に向けて準備中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>入居契約時に意見・苦情の窓口の説明をしている。外部団体でも受け付けていることも説明している。また苦情ご意見箱を設置したり、家族面会時、電話連絡時に意見を伺うようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの設立時に町会の会合に参加しているが、その時以降は地域との関わりは本体施設が主体となっており、グループホームとしての地域との交流はあまり図られていない。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい暮らしを大切にしたいと考え、地域との調和を謳った理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念を管理者及び職員共に理解している。日々のミーティングや申し送りの中でも振り返り、確認し合うようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの設立時に町会の会合に参加しているが、その時以降は地域との関わりは本体施設が主体となっており、グループホームとしての交流は図られていない。		入居者が地域とつながりながら暮らし続けるためにも、事業所が積極的に地域住民との交流に努めることが望まれる。町会、自治会への加入、広報や掲示板の活用などで地域と接点をもつ努力が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は自己評価の意義を理解しており、職員一人ひとりが自己評価を行い、その後全員で改善点を話し合っている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業開始から現在まで、まだ開催したことはない。現在12月の開催に向けて準備中である。</p>		<p>2ヶ月に1回の開催が求められる。早期開催の実現が望まれる。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者へは毎月伺っており、運営の実情を伝えたり、相談したりと情報を共有して取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>対象となりそうな入居者について、現在家族と話し合っ制度を活用できるか協議している。対応するのが担当者だけなので、職員全員で学ぶ機会がない。</p>		<p>担当者だけでなく、全職員の制度への理解が求められる。定期的な勉強会や研修の場を増やして理解を深めることが望まれる。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の防止の為に、尊厳保持の観点を含めた確認・理解ができるよう事業所内で標準的ケアを定めている。</p>		<p>虐待防止に関する職員の理念の共有はできている。今後は事業所内でのルールやマニュアル作りの取り組みに期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族へは事前に見学へ来てもらい、契約の説明も十分時間をとって行っている。重度化した場合や、入院時の対応などは契約時またはその都度状態を見ながら説明するようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>普段の暮らしぶりや金銭管理については、支払い時(毎月)に報告している。金銭管理は面会時に通帳を見せて確認してもらっている。来られない方には便箋に暮らしぶりを書いて伝えている。状態に変化が見られた時にも報告を入れるようにしている。便りの作成を検討中である。</p>		<p>金銭管理に関して、出納状況をわかりやすく確認できるように出納帳を作成してはどうか。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に意見・苦情の窓口の説明をしている。外部団体でも受け付けていることも説明している。また苦情ご意見箱を設置している。</p>		<p>一度説明したきりで終わらず、繰り返し説明をして利用者・家族からの意見の吸い上げを図ることが望まれる。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動が決まった場合は一ヶ月前から引継ぎ期間を設けて、入居者へも挨拶するようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベル別に研修の受講をさせるようにしている。また新人職員には3ヶ月間の認知症に関する研修を行い、外部より講師を招いたりもしている。法人で作成した標準マニュアルを各自持っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業開始当初は他施設と情報交換をしていたが、現在はほとんど行われていない。		同業者との交流は、事業所内での行き詰まりの解消や、緊急時の連携をスムーズにするなど、事業所の質の向上につながる。以前に行っていた他事業所との情報交換を継続してみたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来てもらい、家族やケアマネと相談しながら徐々に馴染んでもらうようにしている。利用後もホームへ馴染めるまで、家族の面会や外出の機会を増やしてもらうなどしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を共同生活上の支援者として関わっていただけるよう、食事の準備や部屋の掃除、洗濯物たたみ等、状態に合わせて支えあう場面作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や暮らし方の希望をつかめるように、普段のコミュニケーションの中でとっかかりを見つけられるよう心がけている。家族から話を伺ったり、それまでの生活暦等から把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	業務が中心の介護計画で、入居者や家族の意向が反映されていない。担当者が中心となって作成されており、スタッフ間の共有が計られていない。		本人・家族・関係者と話し合い、意見や要望を汲み出して、利用者の視点に立った介護計画の作成が望まれる。また担当者だけでなく、スタッフ全員で課題となることを協議してみたい。
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごと、または状態が変わることにより振り返り、見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添いや、入院時早期退院できるように面会に行ったり、情報提供をしている。また、予定外の外出にも柔軟な支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や入居者の希望を取り入れながら、入居者がいまままで診られていた医療機関を優先して受診するようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みはしていないが、現在のサービスで適応困難な場合には入居前のケアマネや主治医、家族と話し合い、今後のサービスについて話し合うようにしている。状態が変化するたびに説明をするようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに対する基本姿勢を職員間の話し合いのなかで確認し、徹底するようにしている。入居者へはとも丁寧な接しており、誘導時の声がけもさりげなく行われていた。入居していることを知られたくない方もいるので配慮するようにしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のホームでのスケジュールはあるが、本人の意思を尊重して、その人のペースに任せるようにしている。夕食後などは仲間同士で話をしたり、テレビを見たりと思い思いに過ごしていただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>年に一回嗜好調査を行っており、メニューには入居者の好みや力が反映されるようにしている。配膳、おしぼりたたみ等は入居者にも手伝っていただいている。食事中は職員は介助に徹してしまっている。</p>		<p>介助する一方にならずに、職員と一緒に食事を味わいながら楽しむ環境づくりの検討に期待したい。ごはんたき、味噌汁づくりも入居者に参加していただいているかどうか。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は基本的には週2回だが、希望により入浴日を設定している。また併設施設に大浴場があるので、そちらに入浴することもできる。手浴・足浴も行っている。男性の職員もいるので、入居者へ異性の介助でもかまわないか確認している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>裁縫、建物内の見回りなど、入居者の生活歴を活かした楽しみごと、役割をもってもらえるようにしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>月一回花見や紅葉狩りなど季節に合わせた外出をしている。時間を決めて、全員へ声をかけて散歩をするようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での標準的ケアとして、入居者の尊厳保持の観点から拘束を行わないケアに取り組むことを職員は理解している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8時から21時と時間を決めて開錠しており、夜間は安全のため施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼と夜を想定して避難訓練行っている。近所の住民に防災協力員になってもらい、毎月0のつく日(10、20、30日)に来てもらい巡回を行っている。災害時の予備の食料を確保している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は毎日記録をとり、飲水料は午前と午後で一定量を確保するようにしている。メニューは栄養士が作成しており、栄養バランスを確保するようにしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しているが、全職員で学び共有する場が無い。インフルエンザの予防接種を入居者、職員共におこなっている。		感染症は具体的な予防・対応策が必要である為、全員で感染症の知識を共有するために勉強会を行い、実際の対応ができるように徹底を図ることが求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの大きな窓から田んぼや岩木山が一望でき、季節感を感じられる。生活空間において不快な音やにおいなどは感じられない。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>趣味の道具や位牌など自分の使い慣れ親しんだものをそれぞれ持ち込んで、居心地のよい部屋が作られている。また、理念の「和」を活かされた畳の居室が主となり、落ち着きを感じられる。</p>		

 は、重点項目。